

コード	502031501
記入日	H23.6.10

課コード	125
課名	生涯学習課
課長名	西川 義男
担当者	網田 勝

# 事務事業途中評価表

作成年度	平成 23 年度
------	----------

評価対象事業名称	上五島備蓄記念会館管理運営費
----------	----------------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 17 年度 ~ 平成 - 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	5	政策名称	しまの誇り・文化の育成	款コード	10
施策コード	502	施策名称	生涯学習の充実	項コード	5
基本事業コード	50203	基本事業名称	学習基盤の整備	目コード	4
事務事業コード	5020315	事務事業名称	上五島備蓄記念会館管理運営費	細目コード	1001
関連計画			法令・条例規則等	新上五島町石油備蓄記念会館条例	

## 計画 (PLAN)

※単年度繰返事業については、全体欄を\*\*\*\*\*とする。

対象：誰、何を対象しているのか		対象指標：対象の大きさを表す指標				
(対象1) 住民		(対象指標1)	23,210人 (H22.4.1現在)			
(対象2) 施設利用者		(対象指標2)	85,074人			
事業の概要：具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標：事務事業の活動量を表す指標・達成率 (上段：全体、下段：評価年度)				
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
*****	適切に会館内設備、機器等の保守点検を行った。	① *****	*****	*****	保守点検回数62回+計画した保守点検回数62回	*****
		保守点検回数	62回	100%		平成22年度
		(達成率分析)	計画どおり実施した。			
*****		② *****	*****	*****	イベント開催件数2件+計画した開催件数2件	*****
		イベント開催件数	2件	100%		平成22年度
		(達成率分析)	計画どおり実施した。			
目的：何をしたいのか		成果指標：目的の達成度を表す指標・達成率 (上段：全体、下段：評価年度)				
*****	住民の文化活動や生涯学習を推進し、町の活性化を図ることを目的に、施設の管理運営を行っている。また、町の催しものや各種イベント開催により利用者の増加を目指す。	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
		① *****	*****	*****	開館した日数359日+開館すべき日数359日	*****
		開館した日数	359日	100%		平成22年度
		(達成率分析)	計画どおり実施できた。			
*****		② *****	*****	*****	利用者数85,074人+計画した利用者数	*****
		利用者数	85,074人	102.8%	82,736人	平成22年度
		(達成率分析)	前年度利用者数を基準に目標利用者数を設定し、前年度利用者数を上回ることができた。			

## 実施 (DO)

※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		21年度以前	22年度		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	計画
活動指標	① 回	246	246	184	62	62					
	② 件	25	25	23	2	2					
成果指標	① 日	359	359	359	359	359					
	② 人	413,207	415,545	330,471	82,736	85,074					
総事業費 C (A+B)	千円	248,316	248,316	208,760	39,556	39,556					
直接事業費 A	千円	178,316	178,316	152,760	25,556	25,556					
人件費 B	千円	70,000	70,000	56,000	14,000	14,000					
内訳	従事職員数	人	10.0	10.0	8.0	2.0	2.0				
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円									
	起債	千円									
	その他	千円									
一般財源	千円	248,316	248,316	208,760	39,556	39,556					

**評価**

※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	・町が税金を投入して行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	町の施設であり、住民のため町が行う必要がある。
	・時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	住民の文化活動、生涯学習活動を推進する上で必要である。
	・事業の対象・目的は適切ですか。	●適切 ●不適切	理由	適切である。
有効性	・現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	●いる ●いない	理由	町内の中心に位置し、施設の機能を発揮して成果を上げている。
	・成果を向上させる余地はありますか。	●ある ●ない	理由	開所以来20数年経過し、施設、設備を改善・改修することで向上させることができる。
	・事業を行わない場合の影響はありますか。	●ある ●ない	理由	適切な施設の維持管理を行わなければ、文化活動・生涯学習活動に影響がある。
	・類似事業との整理統合はできませんか。	●できる ●できない	理由	類似事業はない。
効率性	・直接事業費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	これ以上の削減はできない。
	・人件費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	これ以上の削減はできない。
	・受益者負担は適正ですか。	●はい ●いいえ	理由	施設設置の目的からして適当である。

**改善**

改善策	1次評価	妥当性	現在のところ計画を見直す必要はない。
		有効性	文化・生涯学習が活動できる場を提供することで、学習意欲を高める施設として有効である。
		効率性	施設の改修・改善を行うことで、効率を上げることができる。
		課題に向けた改善策	開所以来20数年経過し、施設老朽部分改修、設備の改善・改修が必要である。
	2次評価	妥当性	1次評価のとおり。
		有効性	町民の公民館活動や読書活動を充実させていくこと。また、エレベーター設備の設置などにより、各種イベント施設としての利用効果がさらに高くなっている。その使用に際しては支障がないよう適正に維持・管理に努めること。
		効率性	経費の執行については適正に行い節減に努めること。

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次	
	●			このまま事業を継続
		●		事業内容を見直して事業を継続
				事業費を見直して事業を継続
				類似事業と整理統合
				事業の休止
				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。